



技術士だより

—(社)日本技術士会九州支部・九州地方技術士センター秋季号<第25号>(平成7年9月15日発行)

◇巻頭言

会員増強について

まずセンター会員、ついで技術士会員に

川崎 達一 (九州地方技術士センター副会長)

今年の夏は台風の襲来が少く、また大変暑い日が続きましたが、皆様方にはお元気でお変わりなくお過ごしのことと存じます。先の長期予報では冷夏になるようでしたが、これが外れ、毎日の猛暑続きで真夏日（日中の最高温度が30°C以上）、熱帯夜（夜中の最低温度が25°C以上）が続き、ウンザリしました。梅雨期後半の500ミリに達する集中豪雨で心配された水不足も吹き飛び、この暑さは稻作には好影響が予想されるのでじっと我慢して耐えてきました。

さて今年の役員改選で、小生思いがけず「九州地方技術士センター」（以下センターと称す）の副会長に選任され責任の重さを感じています。今迄は(社)日本技術士会（以下技術士会と称す）九州支部の第2部会長を勤め、大変御世話になり御礼申し上げます。今後とも何卒宜しく御指導、御支援を賜るようお願いします。

「センター」会員と「技術士会九州支部」会員との違いについて時々質問を受けますし、小生も当初良く理解できませんでした。各種行事や活動も一体となって運営されております。会員の区別について説明すると九州地区に勤務先または住所のあることは同じですが、支部会員は技術士会の会員（技術士登録者で入会希望者）に限られますがセンター会員は技術士本試験合格者で入会を希望する者となっています。したがって技術士登録をしていない人（官公庁勤務者等）や登録しておっても技術士会に入会していない人が該当します。技術士会員は自動的にセンター会員となります。このように九州地方における技術士基盤の強化と加入者の範囲の拡大を目的としてセンターが設立されたのです。

平成7年3月でのセンターの会員数は技術士会九州支部の会員259人を含み567人で広範囲に組織されていることが判ります。九州での技術士の登録者数は約1,000人で技術士会の組織率は僅かに26%です。全国でみると7月20日現在で登録者数、約30,000人に対して技術士会員は約4,500人で組織率は僅かに15%にしかすぎません。

どうしてこのように組織率が低いのか、これを高めるにはどうしたら良いかという問題については、今迄に多くの人がいろいろ論じられ提案もされてきましたがまだ充分ではありません。

年会費とそのメリットがいろいろ云われますが、技術士会員では年会費24,000円で毎月本部より機関紙「技術士」が送られてきます。センター会員では年会費8,000円で年4回発行の「技術士だより」が送られてきます。その他講演会、現地研修会等への案内や会員名簿が得られるのは共通です。ただこれだけを考えれば入会のメリットが少いとの不満も理解できますが、これだけのメリットしかないわけではありません。

今日の「技術士」は昭和32年公布の「技術士法」によって明確に位置づけられましたが、これは先輩有識者の、頭と体と時間とを最大限に使って、血のにじむような努力の成果で、棚からボタモチ式に「技術士」ができたものではないことを認識する必要があります。今日までの技術士

1人でも多くの入会をお勧め下さい

(巻頭言のつづき)

会の活動は技術士の社会的地位の向上や技術的基盤の確立等に努力してきました。そのお陰で我々技術士は自分の名刺に技術士(〇〇部門)と印刷したり肩書にも技術士の表現がみられるよう、技術士会の活動の恩恵によって、技術士なる資格を利用して、社会的活動を行っているわけで、これこそ大きなメリットのはずです。

技術士会の活動には親睦的なもの、勉強会的なものと圧力団体的なものがあり、技術を通じて一般社会に対する寄与を目的としており、我々技術士は全員が技術士会に入会して、我々の社会的、経済的地位の向上のための活動を支援するとともに技術的基盤の強化に貢献する義務があると考えます。

とはいっても全員の入会を期待するのは無理がありますし、受益者負担の原則からも最終的には法律的な強制力を持たせて、「登録(名刺に技術士と記載できる)即入会」とするのが理想です、直ちに「登録即入会」の実現が難しいならば技術士の技術力の確保と向上を目的として、技術士の登録更新制度を設け、そのなかで技術士会の会員であることと、専門別の一定の研修合格者であること等を条件として会員の増強が計れるし、技術士の専門の技術力を保証することになって公共の福祉の増進が計られるようになるのではないか。御検討をお願いしたい。

技術士会が弁護士会や医師会に匹敵する会になるよう期待したいのですが、一朝一夕にはその実現は難しいでしょう。現状においては会員の増強を行って技術士会の活動をバックアップする必要があります。入会の直接メリットもさることながら、技術士として社会的活動を行っている人は、自分の地位の確保、向上のために技術士会に当然入会すべきであるとの理念をもって会員を勧誘することが必要です。

幸い、九州には技術士会と全く同じ目的をもって一体となって活動している「九州地方技術士センター」があります。こちらの方が技術士会より会費の点で負担が少なくて入会しやすいので、まず「センター」に入会を勧誘し、その後御理解を頂いてから「(社)日本技術士会」に入会しと貰うという順序で会員増強を計るのが良いと考えます。会員の出身職域(現役、O B)等で技術士会を結成して技術士としての意識を高めるようにするとさらに効果があがるでしょう。このような考え方で、一部職域で既に相当の成果があがっていることを報告し、会員各位の会員増強についての格段の御協力をお願い致します。

私の提言

「技術士の活性化に向けて」

黒岩 有郎夫 (鹿児島・農業)

技術士会の活性化については、有資格者の登録、技術士会への入会等かねがね会員の間で話題となり、問題視され議論されている。

鹿児島県の技術士会も活性化対策をどうするか、模索を続けているか難しい問題で妙案を見出せない。現在取り組み中の対応策の一端を述べますと、① 技術士の登録……

…有資格者(第二次試験合格者の意)で未登録の方々に、技術士登録簿に早期登録していただくよう面会または電話等でお願いする。

② 技術士会への入会勧誘……県内の有資格者を調査、所在を確認し、本人に直接、会の目的、活動状況を説明、入会を要請する。この方法が効を奏したか今回全員の快諾を得、加入された。③ 技術士制度のピアーノ

(次ページにつづく)

(私の提言 つづき)

ル……技術士制度、技術士についてのピアールの不足か、「技術士法」は、いまだに知らない人が多く、市民権を得ていない。

当会では、“見やすい会員名簿”を作成、県内の国の出先、県、市町村、関係団体等広範囲に配布している。④ 青年技術士会の創設……当会は総会を含み年2回程度の会合を開いている。会は出席率が低く、特に若い人の出席が少なく運営の大きな障害となっている。この障害を除去し、活性化を図るため、

若い会員が出席しやすい環境づくりを目指して「青年技術士会」を創設する。この会は、会員の研修、研究発表会、現場見学会等を実施し、会員相互の親睦は勿論のこと、“ヤル気のある技術士”づくりを目指している。

青年とは、年齢の制限はしないが50歳代前半を目安とし、希望者は何人でも参加を歓迎することとしている。

以上、私なりに活性化についての考え方を述べましたが、なにか皆様の参考になれば、幸甚に存じます。

日本技術士会近況

原井東男(理事)

◎臨時次期役員会；定時総会；第2回理事会の報告

I 臨時次期役員会(平成7年6月21日)
役員選挙の結果を踏まえ、次期会長の選任、次期副会長の指名：常設委員会委員長の委嘱を定時総会に先立ち行う委員会である。会議の結果は下記の通り。

会長 宮崎茂一(建設)

副会長 杉田吉晴(電気・電子)

” 鈴木 清(農業)

” 館谷 清(北海道・建設)

常設委員会委員長

倫理委員会 中瀬大一(船舶)

政策 ” 杉田吉晴(電気・電子)

財務 ” 野村 亨(経営工学)

事業 ” 大島 久(建設)

広報 ” 鈴木 清(農業)

業務 ” 西川研次郎(水産)

報酬 ” 川崎五郎(建設)

II 第37回定時総会(平成7年6月21日)

(1)議案

第1号議案 平成6年度事業報告、同収支決算報告及び監査報告。

第2号議案 定款第18条3項による専務理事及び常務理事の選任。

(2)報告

1. 役員選任の結果報告

□. 会長選任の結果報告

(3)会長表彰

以上各項とも全会一致で承認された。内容は多岐にわたるため紙面の都合上割愛する。

III 平成7年度第2回理事会(平成7年7月19日)

(1)会長の選任及び副会長の指名の追認

(前掲役員会にて決定した通り承認)

(2)評議員の委嘱について

(前期副会長、理事、監事を評議員として委嘱した)

(3)常設委員会委員長の指名の追認

(前掲役員会にて決定した通り承認)

(4)常設委員会等委員の委嘱について

(7常設委員会委員及び9調査委員会委員と1特別委員会委員の委嘱を承認)

(5)業務斡旋管理規定、業務斡旋事務管理費細則及び受託事務処理要領の改定について

(規定の改定、細則の改定は平成7年4月1日より施行する。又要領の改定は平成7年7月19日より施行することとなった。内容については別の機会に紹介する。)

(6)報告事項

1. 定時総会の結果報告

□. 一次試験受験申込状況

△. プロジェクトチームの申請

△. 各常設委員会より活動状況

△. 会員等の入退会状況

(平成7年8月1日記)以上

◎平成7年度第1回支部長会議(要約)

日時：平成7年6月22日(木)13:30～16:30

(次ページにつづく)

(本部近況つづき)

場所：(社)日本技術士会、本部会議室
担当：九州支部

議題・意見

- ・各支部の年間所要経費について
- ・定款改正に伴う役員制度について
- ・支部における広報活動の具体策について
- ・部会長と支部長の合同会議の開催
- ・支部長会議の本質は何か
- ・技術士本試験事務、同登録事務の改善と技術士会入会について

以上議題に対し、討議意見交換を行った

結果

- ・各支部の決算資料では実費が不明につき／

様式を統一して分析することとする。

- ・今回理事選挙後の検討は政策委に引きつがれた。
- ・パソコンネットワークの活用、PL法施行に伴う技術士の活用等各支部で検討。
- ・部会長との合同会議よりもむしろ、常設委との懇談会を行うこととする。
- ・各支部会計の実態調査、本質問題、試験登録事務の改善と技術士会入会、の3議題は次回への継続審議とする。

・次回支部長会議は

日時：平成7年11月17日

場所：中四国支部で選定

担当：中四国支部

技術士会九州支部・九州地方技術士センター 行事・会合などの報告

支音センターハ行

◎平成7年度第1回合同役員会

1. 日時 平成7年6月30日(土)

2. 場所 博多パークホテル

3. 出席	九州支部	九州地方技術士センター
定員	32名	33名
出席	25"	15"
委任	6"	10"

4. 審議事項

- (1) 平成7年度事業計画予定について
- (2) 平成7年度常設委員会事業計画(案)
について
- (3) 平成7年度各地区事業計画(案)
について
- (4) 平成7年度各部会事業計画(案)
について
- (5) 中・四国支部と九州支部合同セミナー
について
- (6) 旅費規定の改定について

5. 報告事項

- (1) 本部の動向について
- (2) 支部長会議について
- (3) その他

☆平成7年度事業計画(案)

(社)日本技術士会九州支部、九州地方技術士センターは、本部及び支部との情報交換を／

／密にするとともに、会員相互の信頼と協調を基とし、会員の品位と実力を高め、技術士の活性化と社会的地位の向上発展を目指し、“魅力ある技術士会・活動する技術士会・躍進する技術士会”を構築することを基本方針として各事業を行う。

- (1) 地域振興に密着した技術士業務の充実強化と業務拡大に努める。
- (2) 会員増強を進める。
- (3) 支部およびセンターの連携を深め運営の充実を図る。
- (4) 支部およびセンターの発足30周年の記念行事を行う。
- (5) 技術向上を目指した第8回九州地域官公庁職員と技術士との合同セミナーを行う。
- (6) 九州支部およびセンターと沖縄技術士会との合同研修を行う。
- (7) 九州支部およびセンターと中四国支部との合同研修を行う。
(7月21日～7月22日 担当中四国支部)
- (8) 第3回西日本技術士研究・業績発表年次大会に積極的に参加する。
- (9) 研修会・見学会を各地域別・各技術部門別に開催し活性化を図る。
- (10) 社会情勢の変化に伴う新規分野に対応するための、指導業務開発に取り組む。
(次ページにつづく)

- (支部・センター行事報告 つづき)
- (11) 地域交流・海外交流を積極的に取り組む。
 - (12) 技術士の育成を推進する。
 - (13) 技術士試験の実施に積極的に協力する。

☆平成7年度常設委員会年次計画

(1) 委員会・総務委員会

(委員長 重富秀雄)

- 1) 会員増強対策の強化実施 (特に企業内技術士を対象とする)
- 2) 技術士会九州支部30周年記念事業の積極支援
- 3) 沖縄県技術士会との合同セミナーの開催 (事業委員会との共同実施)
- 4) 各自治体ならびに地元企業に対するPR活動の展開

(2) 委員会・試験管理委員会

(委員長 斎藤健男)

- 1) 6月23日(金)第1回試験管理委員会
(全委員及び関係者)
「試験問題の発行と試験問題(案)の作成」
 - 2) 7月14日(金)試験管理委員会小委員会
(委員長、副委員長3名)
「試験問題の選定、提出(技術センター宛)」
 - 3) 8月4日(金)第2回試験管理委員会
(全委員及び関係者)
「技術センター作成・試験問題の選定、提出(合併)」
 - 4) 8月22日(火)第3回試験管理委員会
(全試験監督員及び関係者)
「試験問題の担当、出席確認及び試験会場の設営準備」
※開催場所:九州大学工学部2番講義室
集合時刻 PM1時
 - 5) 8月23日(水) 平成7年度技術士第2次試験(筆記)実施第1日
「試験場:建設部受験者」
※実施場所:九州大学工学部教室及び理学部の一部教室使用
集合時刻 AM8時 試験実施部 工学部2番講義室
 - 6) 8月24日(木) 平成7年度技術士第2次試験(筆記)実施第2日
「試験場:建設部を除く受験者」
※実施場所:九州大学工学部教室一部使用
集合時刻 AM8時 試験実施部 工学部2番講義室
- 技術士第1次試験に関する試験管理業務の計画の日程及び内容

- 1) 9月1日(金)試験管理委員会小委員会
(委員長、副委員長3名)

「試験問題の発行と試験問題(案)の作成」

- 2) 9月7日(金)試験管理委員会小委員会
(委員長、副委員長3名)

「試験問題の選定、提出(技術センター宛)」

- 3) 10月8日(日)平成7年度技術士第1次試験実施

「試験場:全部受験者」

※実施場所:東洋大学の一部教室使用

集合時刻:AM8時 試験部

(3) 委員会・事業委員会

(委員長 甲斐忠義)

- 1) 第3回西日本技術士研究・業績発表年次大会

・大会テーマ「豊かさと安全を目指す技術士」

・期日 平成7年7月21日(金)~22日(土)

・会場 テ 730 広島市中区八丁堀 8-28
八丁堀シャンテ

・タイムスケジュール

△ 7月21日(金) 10時~

イ. 大会セレモニー

(支部発足30周年記念式典含)

ロ. 基調講演「活断層について」

講師 広島大学文学部助教授
中田 高 氏

ハ. 分科会

(2会場にて、発表件数24件)

二. 懇親会

△ 7月22日(土) 8時~

ホ. 見学会旧海軍兵学校(江田島)呉市内

2. 第2回技術士全国大会

・日時 平成7年9月6日(水)

・会場 札幌後楽園ホテル

テ 060 札幌市中央区大通西8丁目

・大会テーマ 「く・ら・しと技術」

イ. 分科会第1, 2, 3, 4特別分科会

ロ. 記念式典

ハ. 記念講演

講師 作曲家 森田公一

演題 「わがふるさと北からのメッセージ」

二. 懇親会

ホ. 研修旅行

(A) 日帰り 9月7日(木)

札幌郊外と支笏湖の旅

(次ページにつづく)

- (支部・センター行事報告 つづき)
- (B)1泊2日 9月7日(木)~8日(金)
洞爺湖・登別温泉へ
道南の旅
- (C)2泊3日 9月7日(木)~9日(土)
神秘の摩周湖と
阿寒湖~道東の旅

(1)センター・育成委員会

(委員長 久保田信一)

- 1)技術士能力育成講座筆記試験用講習会
(3回4日)
- 第1回講習会 4月16日(土)9:00~17:00
第2回講習会 6月10日(土) " 第1回
" " 6月11日(日) " 第2回
第3回 " 7月22日(土) "
- 福岡商工会議所 受講申込者 125名
- 2)技術士能力育成講座口頭試験用講習会
(1回1日)
- 筆記試験合格発表後(11月18日 9:00~17:00)
- 3)準備教室(1回1日)
準会員と筆記試験不合格者を募り来年度
以降2次試験受験の準備方法を講義
本年度新設(11月25日 10:00~15:00)

(2)センター・研修委員会

(委員長 町田貞徳)

- 1)忘年パーティ及び会員研修会
期日 平成7年12月2日(土)13:00~19:00
場所 博多パークホテル
- 2)会員研修及び新合格者研修並びに
合格者祝賀会
期日 平成8年2月24日(土)13:00~19:00

(3)センター・活性化委員会

(委員長 斎藤清美)

- 1)第3回西日本技術士研究・業績発表年次
大会の支援
- 2)九州地方における青年技術士懇話会の組
織化とその支援活動
- 3)官公庁・関係機関に対する「技術研究抄
録」等の配布による技術士のPR活動
- 4)技術士及び技術士会の活性化に関する意
見集約並びに審議等

☆平成7年度各地区年次会議

- (1) ~~福岡~~ 地区代表幹事(矢野友厚)
- 1)地域の振興に密着した技術士業務の充実
強化と業域拡大に努める
 - 2)(社)日本技術士会本部、支部、センター
の活動に積極的に協力、参加し推進母体
となるよう努力する
 - 3)支部及びセンターの発足30周年記念行
事開催の際は中心母体となって参画する
 - 4)会員増強を強力に推進する
 - 5)YCE福岡の活動を支援し、九州地区の
青年技術士の活性化を図る

- (2) ~~北九州~~ 地区代表幹事(江畠賢一)
- 1)地区月例会を原則として毎月1回開催し
会員間の交流を深める
 - 2)技術講演、見学会等を通じて相互啓発を
図る
 - 3)国際協力事業団(JICA)九州国際技術協
力協会(KITA)が行う研修事業に研究機
関構成員として積極的に参加する
 - 4)北九州市融合化製品開発システム支援事
業、技術診断業務、及び福岡県技術アド
バイザー業務を遂行する
 - 5)北九州商工会議所技術専門相談室の専門
相談員として技術振興に協力する

- (3) ~~佐賀~~ 地区代表幹事(向井治孝)
- 1)技術士への受験促進のPR、第1次第2
次試験受験説明会
 - 2)関係機関への会員増強活動
 - 3)他協会との講演会、研修会の協同主催及
び講演会、研修会への積極的参加
 - 4)新合格者の祝賀会及び総会の開催

- (4) ~~長崎~~ 地区代表幹事(城石高彌)
- 1)組織の拡大
 - 2)第8回九州地域の官公庁職員と技術士と
の合同セミナー
テーマ「水問題の新たな展開について」
日時 平成7年11月10日(金)~11日(土)
場所 長崎厚生年金会館

- (5) ~~販賣~~ 地区代表幹事(青山次則)
- 1)地域の振興に密着した技術士業務と業域
の拡大に努める
 - 2)会員の増強と会の組織運営の充実
 - 3)第1次第2次試験受験案内説明会
(次ページにつづく)

- (支部・センター行事報告 つづき)
- 4)九州国際ハブ空港シンポジウム
平成7年7月(島原市)平成7年8月(本渡市)
 - 5)第6回セミナー 平成7年12月
 - 6)地域新エネルギー(省エネルギー)利用システムシンポジウム平成7年10月(八代市)
 - 7)土木学会主催の(土木の日)事業支援

- (6)大分地区代表幹事(川野宏平)
- 1)大分県の振興に密着した技術士業務の充実強化と業務の拡大に努力する
 - 2)会員の増強に努める
 - 3)青年技術士会の結成を計る
 - 4)技術試験の育成を推進する
 - 5)兵庫県南部地震をふまえて、大分県における地震対策についての研修会を開催する

- (7)宮崎地区代表幹事(新城精一)
- 1)会員相互の交流、懇親を深める
 - 2)「技術士」PR、「会員名簿」作成配布
 - 3)会員増強への積極的な取り組み
 - 4)支部主催行事への積極的な参加
 - 5)技術士試験願書配布 平成7年4月15日
 - 6)宮崎県技術士会総会、合格祝賀会、懇親会
 - 7)宮大特別講演「これからの中高社会にどう対応していくか」平成7年6月16日
 - 8)宮崎県技術士会懇親会ゴルフコンペ
平成7年11日
 - 9)「土木の日」共催 平成7年11月18日
 - 10)技術士試験願書配布説明会
平成8年3月16日

- (8)鹿児島地区代表幹事(黒岩郁夫)
- 1)技術士会本部、支部の活動に積極的に協力
 - 2)会員増強を図る
 - 3)青年技術士活動の活性化
 - 4)研修、見学会の開催
 - 5)会員名簿の作成、配布

☆平成7年度各部会年次計画

- (1)第一部会(会長 山谷三郎)
- 1)研修講演会
 - (1)第1回 平成7年9月30日(土)
13:30~17:00
講師2名(機械、電気電子)

会後懇親会

(2)第2回 平成8年2月17日(土)
13:30~17:00
詳細未定

2)研修見学会

期日 平成7年11月17日(金)~18日(土)
場所 名村造船所見学(伊万里)泊
伊万里焼物等見学

(2)第二部会(会長 帆足建八)

- 1)下水道施設の見学会(第4部会共催)
福岡市西部下水処理場(平成7年6月27日)
- 2)土木工事現場の見学会、宿泊、懇親会
大分地区候補 9月上旬頃
- 3)海外技術研修会
日韓技術士会議に並行で韓国工事現場の見学旅行 10月下旬
- 4)上水道施設の見学会(第4部会共催)
福岡市近郊のダム、浄水場 11月下旬
- 5)技術研修講演会(全6部会共催)
福岡市内で 3月上旬

(3)第三部会(会長 北原徳雄)

- 1)例会懇親会 9月下旬
- 2)講演会(業務体験、研究発表その他)
11月中旬
- 3)見学会(他部会との合同見学を含む)
3月下旬

(4)第四部会(会長 三原節夫)

- 1)技術研修見学会 6月27日(火)
福岡市西部下水処理場MAP法処理装置
MAP法による汚泥中のリンの除外、
MAP顆粒の有効利用(肥料として利用)
- 2)講演会及び懇親会 9月上旬
九州在住の技術士の講演及び懇親会
- 3)技術研修見学会 10月
猪野ダム及び福岡市近郊ダム現在建設中
- 4)技術研修見学会
福岡市の蘿川滞水地、新向島ポンプ場

(5)第五部会(会長 岡部九州生)

- 1)研修見学会
 - 日時 平成7年8月下旬1泊2日
見学先①日田市 ニカイスキ九州工場
九重町 九州電力地熱発電所
②久住町 大分県畜産試験場
(次ページにつづく)

(支部・センター 行事報告 つづき)

竹田市 岡城跡

(6)第六部会(会長 芳賀三千億)

1)見学会 平成7年11月頃

①昭和鉄工(株)宇美工場(福岡市西区)

エアコン・淨水器製造新生産方式(NPS)
を導入している企業

②西日本精糖(株)門司工場(北九州市門司区)

昭和57年に大日本精糖、明治精糖両社の合同生産会社として設立

主製品は上白、グラニューなど精製糖ならびに液糖、角砂糖

昭和62年にP.M.(生産保全)賞を受賞

③サッポロビール(株)門司工場(北九州市門司区)

(注)②と③は午前と午後に振り分け
同日実施

◇平成7・8年度の役員名簿

平成7年5月27日現在

☆(社)日本技術士会九州支部

顧問	黒瀬正行(建) 土居貞夫(衛)	小幡寛二(建) 原井束男(建)	力丸良丸(建)	野々下金(応)
支部長	水上信照(建)			
副支部長	青山次則(建)	矢野友厚(建)		
幹事				
福岡地区	○矢野友厚(建) 江崎親教(金) 棚町修一(建)	重富秀雄(経) 帆足建八(建)	斎藤健男(建) 三原節夫(水)	甲斐忠義(建) 岡部九州生(農)
北九州地区	○江畑賢一(応)	角田正治(機)	北原徳雄(化)	
佐賀地区	○向井治孝(建)			
長崎地区	○城石高弥(建)	長瀬伸也(応)		
熊本地区	○青山次則(建)	林博昭(農)		
大分地区	○川野宏平(農)	児玉源一郎(建)		
宮崎地区	○新城精一(建)	朝日輝(建)		
鹿児島地区	○黒岩郁夫(農)	福島正三(建)		
監事	山谷三郎(機)	完戸鶴(農)		

○=代表幹事

☆九州地方技術士センター

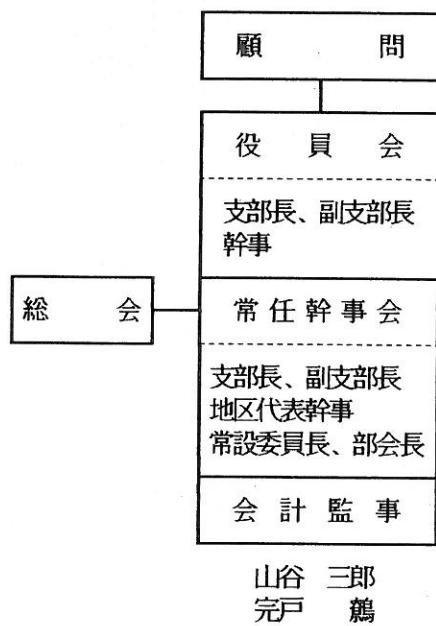
顧問	黒瀬正行(建) 土居貞夫(衛)	小幡寛二(建) 原井束男(建)	力丸良丸(建)	野々下金(応)
会長	水上信照(建)			
副会長	新城精一(建)	川崎迪一(建)		
理事				
福岡地区	川崎迪一(建) 前田剛志(建) 尾中健一(機)	町田貞徳(電) 諸藤元信(建)	久保田信一(建農) 斎藤清美(衛)	是石俊文(建) 笠木直行(建)
北九州地区	泉館昭雄(電)	垣迫裕俊(建)	小松榮一(経)	
佐賀地区	藤永正弘(建)	内山順治(林)	大宅公一郎(農)	
長崎地区	芳賀三千億(経)	柏原公二郎(応)		
熊本地区	加来英器(建)	淵田精三(建)		
大分地区	筑島昇(建)	二宮和生(水衛)		
宮崎地区	井川仁(建)	西田靖(建)		
鹿児島地区	稻田博(建)	郡山匡良(農)		
監事	田中正人(機)	平野道夫(建)		

（社）日本技術士会九州支部および九州地方技術士センター組織図

（平成7年6月現在）

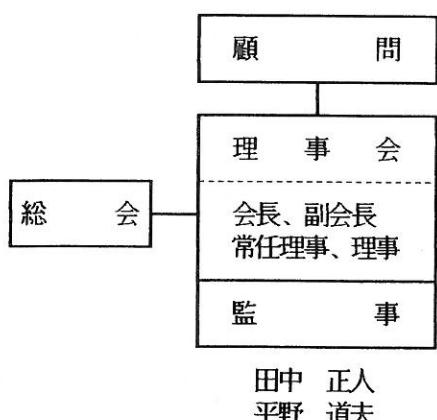
（社）日本技術士会九州支部

支部長 … 水上 信照
副支部長 … 矢野 友厚
青山 次則



（九州地方技術士センター）

会長 … 水上 信照
副会长 … 新城 精一
川崎 迪一



技術研修見学会報告

松田 研志(福岡・水道部門)

去る6月27日(火)、福岡市西区小戸の福岡市西部下水処理場において、第2部会・第4部会合同の技術研修見学会を行い、帆足第2部会長、三原第4部会長を含め16名の方が参加されました。

主な見学施設は、MAP(リン酸マグネシウムアンモニウム)法処理装置の実証プラントでした。MAP法の目的は、「下水処理の工程で発生する汚泥中のリンを造粒化して取り出すことによって、下水処理水のリン濃度を削減するもの。」で、取り出されたMAP顆粒は化学肥料として利用される予定です。なお、この技術は、(社)日本水環境学会より「技術賞」を受賞しています。

福岡市下水道局の阿部係長、柿添氏より、スライドを使って全体的な説明を受けた後、施設の見学を行いました。参加者から、コスト、MAP発生量、他都市の動向、粒径の大きさの意味等について熱心な質問がなされ、有意義な見学会であったと思います。

試しに、MAP顆粒を舐めてみたら、少し苦みを含んだショッピング味でした。

なお、福岡市では、今年度より市内の下水処理場に逐次MAP法を導入する予定だそうです。

最後に、MAP法を含む下水の高度処理により、博多湾の富栄養化が抑制され水質が改善されることを願いつつ、見学会の報告いたします。



第3回西日本技術士研究業績発表大会の参加報告

久保田 信一(育成委員長・福岡・建設・農業)

第3回西日本技術士研究業績発表大会に、センター育成委員会の代表で参加してきました。会長・副会長の的確な指導のもとで事務局長の多大な労に助けられ、委員講師の皆様の絶妙なご協力に支えられている”能力育成事業”的発表でした。この冊子報文を各項毎

の要約再掲にて、ここにご報告致します。

地域の技術力を高める研修セミナー

1.はじめに

地域の技術力を高めるため、技術士の増員
< 次ページにつづく >

が目標なる研修セミナーを九州では例年定期的に開催している。以下は、このセミナーの内容と業績についての報告・発表である。

2. セミナーの歴史とチームの概要

日本技術士会が昭和34年から全国で実施していた“技術士本試験受験講習会”を、本セミナーは引き継いでいる。九州支部と同時期に誕生した九州地方技術士センターの“育成委員会”が、“技術士を目指す人達の指導育成”という事業を担当する本チームである。

3. 研修セミナーの内容

本セミナーの種類は①技術士補研修講座、②第二次試験受験申し込みセミナー、③技術士能力育成講座の3つに大別される。

この①項は第一次試験合格者を集めた講座であり、「日常業務の取り組み方」が講義の中心になる。即ち、第二次試験へ挑んで合格できるための向後の研修方法として、「仕事へ取り組む考え方」を主体に“技術士に相応しい”能力が育つような解説を施している。

次の②項は「独創的な考え方」を育てる趣旨であり、支部試験管理委員会担当の“受験申込書配布説明会”へ便乗し、「技術士制度の意義と主体性育成の必要性」が理解できるような内容で講義している。セミナー3種共に技術士法第2条へ示された“技術の本質部分”的周知徹底を促すことにより、人材の啓蒙を計ろうとするのが研修の中味である。

最後の③項は受験の対策研修セミナーの主役になり、筆記試験用講習会と口頭試験用講習会へ分けた定期的な開催である。「独創力ある考え方の必要性及び養成法」を力説することによって、受験に合格出来る能力を育て、

ようというのが目標の講義内容である。

4. セミナーの業績

受講者を合格させる“受験テクニック”的伝授という方法は当然に存在しないものであり、あくまで受験合格できるだけの実力を養うことがセミナーの基本姿勢にある。この業績としては、最初に人材育成を図ることの成果が合格者増加の数字から評価される。次には日本技術士会が全国的規模で展開している会員増強運動へ寄与する点が、着実な成果を納めている。九州支部の入会率が全国値を上まわることに、この証明がされていよう。

また、会活性化への貢献として講師自身の技術研修となる他に人脈形成が図られ、更に会員团结力が高まるなどを挙げられる。受験者の増加傾向が、このことを物語っている。

5. 改善余地と将来展望

このような業績はまだ満足するに至らず、多くの改善余地が内在する。①「答えを教える」式の姿勢にある受験者が過半数を越え、②一連の講座途中における研修放棄者が数多くに達し、③技術士補研修講座の受講参加者数が激減しており、また支店企業所属の受験合格者が勤務される事例の多いこと等について、早急で確実な対応が必要なのである。

自学研修不得手な人達が集まる当セミナーだが、合格者の増えてきた現在においては一応の成功へ評価できよう。今後も研究改善を重ね、一層の充実を図りたい所存である。

中・四国地域におかれてもこのような事業を試されたら如何だろうかと、このように案じております。同志の方の出現されることを念じ、結びの言葉に代える次第です。完

河川（熊本市街地を流れる白川）の水比抵抗

吉田

蒸留水に近い雨は大地に降り注いだ時点から、その地域特有の土や岩から塩を解かし始めることになる。より長く陸地に留まるほど、また、人の生活圏に入ればよりいっそうイオン濃度は高くなり、最終的に海水となる。水比抵抗は溶存電解質の量（イオン濃度）に逆比例すると見えることから、熊本市街地を流れる白川（約70km）の水比抵抗を測定し、水の滞留時間・地下水を含む上～下流の関係・汚染状態を調べようとするものである。

第3回・耐候性試験講習会発報から

紘彬（熊本・応用理学部門）

白川に架かる橋梁位置と他数点を選び現地測定した結果は、530mの白川水源(4300mの黒川阿蘇神社湧水)が、火山に関係する温泉水の影響で、外輪山出口付近で急に低下し、その後海岸付近までの値は平均310mに均された状態であった。最下流の熊本港付近の海水は0.60mであり、周囲の湧水や、深井戸で汲み揚げられる熊本市の水道水比抵抗も、ほぼ白川に直交する位置で捉えている。

< 次ページにつづく >

上～下流で比抵抗が上下に大きく変化しているところは、再度現地を精査し、他の河川や水路が合流しているのを確認している。熊本市街地では、汚染による比抵抗の低下は見られなかったことから、下水道がほぼ完備されたものと考えられた。白川の比抵抗が平均して310mを示すのに対し、井戸水に頼る熊本市の小山～保田窪間上水道の比抵抗が56～53,

mであることから、白川が直接涵養しているとは考えにくい。むしろ、水源の間に近く、地表から直接浸透している可能性が高い。また、1300mの雨水に赤色火山灰土（ボーリングコア）を混ぜたところ300mに低下したことから、切取り工事に伴う河川水の汚染や、法面の風化状況を知るために利用できないかと考えている。

「事前混合処理工法の概要と施工例」

-第3回 西日本技術研究発表大会発表文から-



中村 哲也（福岡・建設部門）

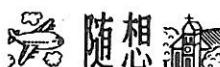
事前混合処理工法は、埋立土砂に少量の安定材（セメント等）と分離防止剤を事前に添加混合し、所定の場所に運搬投入して安定した地盤を造成する工法であり、液状化防止や支持力増加などに効果がある。

事前混合処理工法では、従来の土砂と安定材の混合方法に比べて、大量施工が可能で品質の信頼性が高いベルトコンベア混合方式を開発し、採用している。ベルコン混合方式では、2基の土砂ホッパーとセメントフィーダーから定量供給され、ベルコン上でサンドイッチ状態にした土砂とセメントを、ベルコンの乗り継ぎ部に設置したダンパシュートに衝突させることにより混合する。

東京湾横断道路木更津人工島は、周囲が鋼矢板セル式護岸で囲まれており、この中の島内盛土を事前混合処理工法によって埋立てた。島内盛土に要求される強度は、①液状化防止、②カルバート支持力確保、③土圧の軽減から、

$q_u = 4 \text{kgf/cm}^2$ 設定した。セメント混合処理土は、鋼矢板セル内に吊り込んだベルトコンベア方式混合プラント船で供給した。処理土の投入において、大深度での直投では沈降時に材料分離し、品質のばらつきが大きくなるため、ここでは新たに開発した汚濁分離防止型シュートを用いて処理土を打設した。このシュートは鋼製テレスコ管の内管と低透水膜からなる外管の2重管で構成され、流下速度を減勢することにより材料分離を防止し汚濁を外管内に取り込むことにより汚濁拡散を防止している。

上記の他に埋立土砂の液状化対策として、新潟空港拡張工事や石狩湾新港東岩壁において $q_u = 0.5 \sim 1.0 \text{kgf/cm}^2$ の地盤を造成した。また、震災を受けた六甲アイランドのケーン護岸では裏込め部を事前混合処理工法で置換え、土圧を低減することにより耐震性を高める復旧方法が検討されている。



イタリア中部見聞録(2)

矢野 友厚（センター副会長・福岡・建設）

ている。

○イタリアの親父の顔

「るるぶ情報版」に、イタリアの親父の顔のしわは、パスタとワインとサッカーで刻まれると表現していたが、正にその通りの顔が多い。その上、背広をきっちりと着こなしている魅力がすごい。

○人生を最大限楽しむイタリア人

ケーセラセラの国であり、なるようにしかならぬ人生観を持つ人が多く、ドイツ人と全く対象的で、第二次世界大戦で <つづく>

イタリアの社会・生活

○イタリアの社会

革命も起こさず教会・コミュニズムが共存する不思議な国がイタリア、この柔軟性がイタリアの魅力の一つでありイタリアを理解する鍵である。そして一見矛盾に満ちたイタリア社会ではあるが、基本的な面で絶対に人間を見失ってはならない事を長い歴史の中に学んだ特段の強さをもっているのは、遙か極東の日本からは想像もできない程であると、ブルーガイドワールドのイタリア編では要約し

独伊連合軍が隨所で敗れたのも組んだ相手が悪かったようだ。

○オフィス・商店の休み時間

オフィスは、9^時30' 出勤、10^時30'まで1時間はお茶のみ、12^時30'まで仕事、次いで15^時30'まで昼休み、17^時30'までが仕事、即ち正味4時間が仕事で、商店の大半はこの昼休みを見習っているようでの時間帯は交通機関位しか働いていない。人生をエンジョイするお国柄か。

○イタリア人の愛する言葉

日本語に訳すると“食べろ！”“唄え！”“愛せ！”ダイエットなど冀くらえである。そのせいかビール腹よりもっと進んだ太鼓腹が多い。

食事の際は、よく食べながらよくしゃべっている。誠に食事を楽しんでいるようだ。

○食事と民謡カンツォーネ

料亭に行くと民謡の流し樂士がやってくる。陽気な夜を楽しみながら「サンタ・ルチア」「オーソレミオ」「帰れソレントへ」樂士のアコーディオン、ギターに合わせて唄うも楽し。

○食事のフルコース

私達日本人には控え目の量で出されたので平らげられたが、本当はとてもではないとう。

- ①食前酒 胃の刺激のためシャンパン。
- ②ワイン 魚には白、肉には赤と言われる。
- ③前菜（オードブル）生ハム+冷菜が多い。
- ④第一の皿 スパゲッティやパスタ類にスープがつく。
- ⑤第二の皿 肉料理か魚貝類、肉は牛豚鶏羊兔鳩、アサリ貝+マカロニーは絶品。
- ⑥デザート 菓子、果物、アイスクリームのどれか一品。
- ⑦カフェ 以上7品である。

○イタリアの酒 ブドー酒が主力。

- ・赤ブドー酒 地方名の各種あり。
- ・白ブドー酒 12°~15°でのんたがうまい。
- ・リキュール、ブランデー 銘酒あり。
- ・ビール 日本人にとって濃(いく)がない感じでドイツからの輸入品の方がよかったです。

○イタリアの治安

バスガイドからの注意のとおり、最近はかなり物騒になってきたといわれる日本に比べれば、イタリアの治安は相当に悪い。ヒッタクリとドロボーの国である。“人を見たら泥

棒と思え”を地で行くように犯人を警察の留置場は収容し切れない位多いそうだ。特に、ジプシーやイスラム系の浮浪児の集団強奪が恐ろしく、豪華な指輪をはめていたばかりに指ごと切り落とされた話もある位である。

○水道水

イタリアは地質的に石灰岩が多く、水道水には石灰分が多いので、飲料にはもっぱらノンガスの水ボトルを買って飲んだ。日本の水道水の有難さがしみじみ判った。なお、風呂でも石鹼の泡立ちが大変悪い。

○イタリア人の小用体内タンクは余程太か？

旅行で困るのは小用の公的場所の少なさである。高速道のS Aにはチップ制の施設があるが都市部での観光の際には極めて不自由する。買物をして店のトイレを利用するか、我慢するか、それには限界があるがイタリア人の体内タンクは余程キングサイズにできているようで切羽詰った姿が見られないのはどういうわけだろう。なおトイレチップは200リラ。

○観光バスの運行規則の違い

- ・ガイドは前方を向いてしかしゃべれない
- ・バスの中ではノードリンク、喫煙禁止
但し道路は灰皿と思ってよい
- ・高速道の制限速度は、人命尊重の立場から多人数の観光バスは時速100km、一般車は130km 一般車から次々と抜かれる

○イタリア昨今の政情

ガイドの言では、同国は近年の社会党汚職で揺れており、共産党もソ連没落後往時の勢いなく、右翼が台頭、ムッソリニの孫娘が担ぎ出されようとしているとのこと。なお彼女は有名女優ソフィヤローレンの遠縁に当るらしい。

○コピー商品の正直標示

売場にもよろうが泊ったホテルの展示商品にDropの標示あり。コピー商品の正直標示。

○イタリアの松

イタリアの松は日本の松とは形状がかなり違っており、立ち姿は海鳥のようにホコッと立っており、芸術的なさびしさがある。

レオナルド・ダヴィンチ空港

ローマの西南36kmにあり、ダヴィンチが飛行機の設計を試みていたことから名付けられている。相當に広い広い空港である。

私達の在ローマ期間が丁度復活祭4/16~17

<次ページにつづく>

に当たり、その週の本空港への観光客の到来者は7日間で50万人に及んだという。日平均数値の上では羽田空港の65%に達している。

ローマ市内

(1) コロッセオ (1周527m)

8年の歳月を費やして紀元前80年に完成した古代ローマの円形競技場である。長径188m 短径156m 高さ57m の4階建で、剣闘士の決闘、人間と猛獣の戦いなど地生臭い見せ物が5万人の観衆を熱狂させたという。(写真1,2)

写真 1. コロッセオ遠景



写真 2. コロッセオ内部



(2) コンスタンティヌスの凱旋門

コロッセオの隣にある高さ28m のローマで一番大きく、保存状態のよいSE 315年に建てられた戦勝記念の門(写真3)

(3) 真実の口

サンタマリアインコスマ・ティン教会中にあり、その柱廊に「嘘つきが手を入れると食べられてしまう」の伝説がある。日本の政治家は一度試行されたら如何。映画ローマの休日でも効果抜群の使われ方をした場所という。<次ページにつづく>

写真 3. 凱旋門

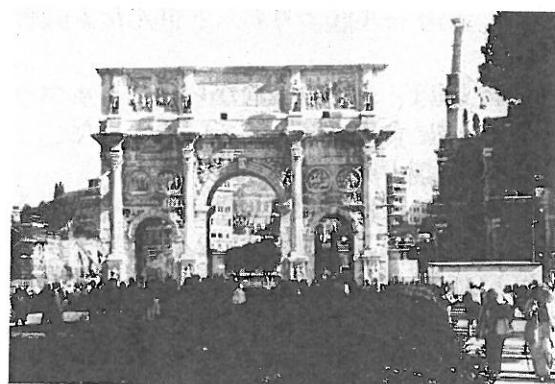


写真 3. サンピエトロ広場の聖人像



(4) トレヴィの泉

ローマに多数ある噴水のNO1で、世界でもNO1、西暦1730年に法王募集コンクールの優賞作。デザインは有翼の馬ペガサスの曳く貝殻馬車の上に、ギリシャ神話の海神ネプチューンが立つ見事なもの。また、泉の場所は、当時神秘の森の処女が、この所を掘れば泉が湧くと教示された処である。トレヴィの泉の周辺は見物客で雜踏しており、また泉にかかる最近の伝説では、泉の中にコインを1つ投げれば再びローマにこれる。2つ投げれば好きな人と結婚できる。3つ投げれば悪妻と離婚できるそうである。なお年間 700万円のコインが投げ込まれるという。

(5) 古代ローマ地区の建築制限

ローマの古代建築は古代ギリシャ人の建築学に優れた才能によるともいわれているが、これらの遺跡を守るために古代ローマ地区では高さは3階以下に押さえられており、この制限は1964年ローマオリンピック以降守られ、永遠の都ローマを保持するため努力している。

(6) ローマ帝国滅亡への回顧

前述の人類の発祥とイタリアの誕生の項で記載したとおり西洋最大の版図を形成したローマは、度重なる出兵と、次から次の壘城建設等で疲弊して行った。兵士は長距離出兵に動員されると家・畠を売って戦地に赴き、凱旋しても家なく浮浪の生活に陥ったという。この内部崩壊の歴史は古今東西を問わず日本も経験し、ソビエトは一步手前で気付いた。

ヴァチカン市国、ヴァチカン宮殿

ローマ法王の住むヴァチカン市国は、世界最小の独立国で、カトリックの総本山サンピエトロ聖堂があり、膨大なコレクションを誇るヴァチカン博物館には世界中の観光客や巡

礼者が押ししかけている。ここには歴代法王が集めたという民族を越えて感動極まりない芸術作品が目白押してある。

ヴァチカン宮殿の一部として公開されているその博物館は、20余の美術館、博物館、図書館から形成されている。

(1) サンピエトロ広場（写真 4）

ヴァチカンの表玄関に位置する大広場。広場は1667年完成したが、284本のドーリア式円柱が並ぶ半円形の回廊に囲まれ、その上に140人の聖人像が立つ。全景はパノラマカメラを2枚横並べしないと写しきれない広さである。

(2) サンピエトロ聖堂

カトリックの総本山で世界最大規模の壮大な教会、16世紀の1626年に再建されたもの。この壮大な建造物建築への疑問は①この膨大な大理石や花崗岩材料をどこからどうやって運び入れたか②石材には継目があり接着されているがその材料は何か、謎が相次ぐ。

(3) 聖堂内部

入口右手にミケランジェロの傑作「ピエタ」があり、ブロンズの天蓋がそびえている。その後陣中央に「聖ペテロ椅子」があり、左にはパウルス3世の記念碑がある。このような建築、彫刻、絵画、合算して今作れば何百兆円かかるだろうか。その壮大な遺産に息をのむ。とても筆舌に尽くし難しの感あり。

ローマ余言舌（シーザーの神殿）

シーザーは自称貴族ヴィーナスの児と、氏と素性にこだわったとの伝説もある反面、一方最近の中東の湾岸戦争でも使われた「サイは投げられた」とルビコン川を渡ったシーザーとポンペイウスの戦いや、シーザーとクレオパトラの物語、そして暗殺と古代ローマ時代の歴史が脑海中に去来する。

<以下 次号につづく>



会員ニュース



☆(社)日本技術士会(九州支部)入会

(地区) (姓) (氏名) (技術部門)

福岡 正嶽 岡田 正隆 建設 〒816
勤務先 ワコーコンサルタンツ

長崎 " 松尾 稔 電気・電子 〒852
勤務先 エムアンドエンジニアリング(株)

大分 " 村山 邦夫 農業 〒870-11
勤務先 (株)セントラルコンサルタンツ

-以下敬称略、受付順-

(連絡先・勤務先-下段)

福岡県大野城市宮野台24-23 ☎(092) 596-2748
☎(092)733-3015

長崎市大手1丁目21-13 ☎(0958)44-2219
☎(03)3293-2671 FAX(03)3293-2669

大分市大字横瀬富士ガ丘5-97 ☎(0975) 41-0161
☎(0975)77-5000

☆日本技術士会（九州支部）入会（つづき）

(地区)	(区分)	(氏名)	(技術部門)	(連絡先・勤務先-下段)
北九州	正嶺	西井 康浩	建設	〒750 山口県下関市宮田町1-3-16 ☎(0832)22 勤務先(株)三洋コンサルタント九州支店 ☎(093)511-0241 FAX(093)522-6040 -5010
福岡	"	畠中新二郎	情報工学	〒811-21 福岡県粕屋郡須恵町須恵346-76 ☎(092) 勤務先 九電情報サービス(株) ☎(092)781-9671(代) FAX(092)711-7223 932-7081
鹿児島	"	福島 正三	建設	〒892 鹿児島市上竜尾町34-13 ☎(0992)48-3316 勤務先 三州技術コンサルタント(株) ☎(0992)23-8791
北九州	"	三方 信行	衛生工学	〒808-01 北九州市若松区青葉台南3-12-9 ☎(093)742 勤務先 新日鉄(株)エンジニアリング事業本部機械プラント事業部 ☎(093)872-7020 -3977
福岡	"	杉野 光	衛生工学	〒815 福岡市南区那の川1-23-35 ☎(092) 勤務先 (株)九電工 ☎(092)523-1231 562-2146
鹿児島	"	大山 勉	応用理学	〒895-13 鹿児島県薩摩郡薩摩川内町市比野737-3 ☎(0996) 勤務先 (株)建設技術コンサルタント ☎(0992)29-2800 38-1493
"	"	山根 史朗	建設	〒899-25 鹿児島県日置郡伊集院町下妙円寺1-56-8 ☎ 勤務先 (株)建設技術コンサルタント ☎(0992)29-2800 (0992)72-2074
福岡	"	江藤 英昭	建設	〒811-34 福岡県宗像市天平台16-4 ☎(0940)35 勤務先 ジェイアール九州コンサルタント(株) ☎(092)413-1020 FAX(092)413-1022 -6018
"	"	甲斐 忠義	"	〒819 福岡市西区下山門1-16-9-401 ☎(092)881 勤務先 東洋地質調査(株)九州支店 ☎(092)412-4976 -3824
北九州	"	古賀 教彦	"	〒805 北九州市八幡東区中央2-8-29-602 ☎(093) 勤務先 (株)松尾設計 ☎(093)661-4970(代) FAX(093)661-9505 662-5410
"	"	大久保英明	経営工学	〒807-11 北九州市八幡西区石坂1-2-14 ☎(093)618 勤務先 濱田重工(株) ☎(093)883-0369 FAX(093)883-0351 -1857
大分	"	小川 敏幸	建設	〒870-01 大分市大字猪野957-45 ☎(0975)27 勤務先 (株)佐藤組 ☎(0975)34-8161 FAX(0975)38-5230 -2873
福岡	"	斎藤 健男	建設	〒815 福岡市南区長住7-8-24 ☎(092)511 勤務先 グリーン・コンサルタント ☎(092)733-6055 FAX(092)781-3673 -4402
"	"	碇 俊明	電気電子	〒811-02 福岡市東区高美台1-24-7 ☎(092)606 勤務先 (株)碇技術士事務所 ☎ 同前 -6727
"	"	藤平 勝	衛生工学	〒814 福岡市早良区荒江3-27-11-203 ☎(092)823 勤務先 パシフィックコンサルタント(株)九州支社 ☎(092)885-5005 FAX(092)885-5003 -1414

☆九州地方技術士センター入会

(地区)	(区分)	(氏名)	(技術部門)	(連絡先・勤務先-下段)
長崎	正嶺	井上 嘉郎	農業	〒859-04 長崎県西彼杵郡多良見町化屋名 ☎(0957)43 勤務先 五洋建設(株)九州支店長崎営業所 ☎(0958)26-7140 -3434
福岡	"	中村 拓三	建設	〒813 福岡市東区香椎駅東4-42-4 ☎(092) 勤務先 熊谷岡山建設工事共同企業体 ☎(0957)55-5466 671-9776
佐賀	"	増元 四郎	"	〒840 佐賀市鬼丸町16-2 勤務先 建設省嘉瀬川ダム工事事務所 ☎(0952)33-1360
福岡	"	橋村 潔	"	〒814-01 福岡市早良区飯倉8-11-6 ☎(092)863 勤務先 八千代エンジニアリング(株) ☎(092)751-1431 -2075
北九州	"	山中 修	"	〒758 山口県萩市江向56 ☎(0838)22-1446 勤務先 (株)地方計画情報センター ☎(093)511-0711

☆九州地方技術士センター入会(つづき)

(地区) (氏名) (技術部門) (連絡先・勤務先-下段)
北九州 竜 須藤 沖部 俊昭 建設 〒807 北九州市八幡西区日吉台2-18-28 ☎(093)602-
勤務先 OK労働安全コンサルタント事務所 TEL(093)602-4728 FAX(093)602-4728-7139
福岡 " 大和 則夫 " 〒811-02 福岡市東区奈多田4-202 ☎(092)607-2582
勤務先 (株)東京建設コンサルタント九州支店 ☎(092)262-7311 FAX(092)262-7316
" " 梅本 恭介 " 〒816 福岡市南区高木3-1-26-205 ☎(092)572-6793
勤務先 (株)東京建設コンサルタント九州支店 ☎(092)262-7311 FAX(092)262-7316
" " 豊崎 貞治 " 〒814-01 福岡市城南区金山田地50-801 ☎(092)861-5118
勤務先 (株)東京建設コンサルタント九州支店 ☎(092)262-7311 FAX(092)262-7316
" " 中村 黙 " 〒815 福岡県筑紫野市光が丘3-27-8 ☎(092)926-
勤務先 九州地方建設局企画部 ☎(092)631-3289(内)3211 -0611
長崎 " 若林 昭彦 " 〒856 長崎県大村市雄ヶ原町1313-69 ☎(0957)54-
勤務先 前田・平山建設工事共同企業体大村原町(作) ☎(0957)54-3983 FAX(0957)53-7158-7272

☆(社)日本技術士会(九州支部)退会

(地区) (氏名) (技術部門)
福岡 竜 須藤 川岸 国晏 建設
熊本 " 田崎 順二 " "
北九州 " 戸木田康男 金 属 転出

☆会員勤務先(住所)および連絡先変更

1. 松永 光司 (建設)
勤務先 〒856 長崎県大村市宮小路3-5
(社)長崎建設技術研究センター
TEL(0957)55-4343 FAX(0957)55-4011
 2. 御供田 交 (建設)
勤務先 〒890 鹿児島市武岡1-113-30
(株)中村測量設計
TEL(0992)82-3110 FAX(0992)82-3116
 3. 藤井 謙治 (機械、経営工学)
勤務先 〒751 山口県下関市綾羅木南町
2-8-34 ビーチベンション105
(株)藤井技術士労働安全コンサルタント事務所
TEL(0832)52-6040
 4. 小旗 明雄 (建設)
勤務先 〒810 福岡市中央区渡辺通1-1-1
西日本技術開発(株)水力部
TEL(092)781-0258
 5. 境 邦誓 (建設)
勤務先 〒810 福岡市中央区渡辺通1-1-1
- ☆九州地方技術士センター退会
- (地区) (氏名) (技術部門)
福岡 竜 上野 勉 建設
" " 兼重 让 "
- ☆西日本技術開発(株)営業部
TEL(092)781-2831
6. 熊谷 孝夫 (建設)
勤務先 〒812 福岡市東区多の津5-42-6
(株)双建技術コンサル(株)
TEL(092)612-3161 FAX(092)612-3163
 7. 川内 貞三 (建設)
勤務先 〒810 福岡市中央区鳥飼1-2-25
(株)大博測量設計事務所
TEL(092)752-2750 FAX(092)752-2721
 8. 亀澤 宏明 (建設)
勤務先 〒880-01 宮崎市大字芳土3701-59
(株)九州土木設計コンサルタント
TEL(0985)39-3330 FAX(0985)39-4098
 9. 稲田 博 (建設)
連絡先 〒891-01 鹿児島市山田町2987
鹿児島県道路公社 TEL(0992)75-3111
 10. 松本 隆茂 (建設)
勤務先 〒881 宮崎県西都市聖陵町2-25
(有)福島測量設計調査事務所
TEL(0985)53-0028 <つづく>

11. 工藤 康芳 (建設)
連絡先 〒882 宮崎県延岡市小峯町6196
TEL(0982)38-0048
勤務先 〒884-01宮崎県兒湯郡木城町椎木
4246 九州電力(株)小丸川開発事務所
TEL(0983)32-4020 FAX(0983)32-4025

12. 小堀 真也 (水道)
勤務先 〒862 熊本市吉原町252-3
(株)三和測量設計社
TEL(096)380-3739 FAX(096)380-1402

13. 大坪 又造 (建設)
勤務先 〒840 佐賀市神野西1-1-30
佐賀県佐賀地区河川改修事務所
TEL(0952)22-8553

14. 久保 末吉 (建設)
前山富士夫 (林業)
勤務先社名変更 日本建設技術(株)
〒847-12 佐賀県東松浦郡
北波多村須恵1417-1
TEL(0955)64-2525 FAX(0955)64-2527

◇会誌“技術士”最近号の主要目次

- ☆7月号
・卷頭言 地方の時代と技術開発／久世 公堯
・研修のページ 中小企業活性化のためのパソコン
LAN(PC-LAN)の活用／本田 尚士
松原 由高

☆7月臨時増刊号
研究・業績特集
各分野における技術士活動の最近の成果

☆8月号
・卷頭言 技術の複合化／上床 珍彦
・私の技術士業務 思いでの業務／川島 和幸
・新役員の紹介

☆9月号
・卷頭言 知的活動の生産性向上／植之原道行
・研修のページ(57) バイオテクノロジーを応用した
環境配置／岩熊 真起

15. 江畠 賢一 (応用理学)
勤務先 〒813-02 北九州市小倉北区
長行西4-11-15 江畠技術士事務所
TEL(093)452-2886 FAX(093)452-3764

16. 久保川孝俊 (建設)
連絡先 〒819 福岡市西区生の松原2丁目
3-15 TEL(092)885-1379

17. 増田直一郎 (建設)
勤務先 〒812 福岡市中央区今泉2-5-28
ノイラ天神 極水設計(株)
TEL(092)741-1518 FAX(092)741-5215

18. 堤 八恵子 (建設)
勤務先 〒812 福岡市博多区博多駅東1-12
-8-7F (株)アーバンデザインコンサルタント 福岡事務所
TEL(092)431-0341 FAX(092)431-0365

—受付順、敬称略—<会員ニュースおわり>

★投稿高を募る★

技術研究論文・技術士の主張・賛助会
員会社の紹介など、技術的なことは勿論
会員の受賞などのニュースもお願いしま
す。積極的な皆さんの投稿をお待ちして
おります。(20字×10行=200字詰め原稿用紙
2~3枚程度ー用紙は事務局にてーを目安
に、支部事務局宛てご送付下さい。)

編集後記

・終戦から50年、懺悔、謝罪…、実(補償)
をとなると…返事は出にくい。当分は近隣
諸国の厳しい評価変わらず。難しい問題。
・ユニバーシアード閉幕。真の友好は、この
ような場、このような時を使って一人ひとり
が地道に築くしかないと思う。
・再来年の全国大会は、九州の当番。周到な
準備で何とか無事、盛大にしたいもの。(小)

発行：(社)日本技術士会・九州支部

九州地方技術士センター

〒810 福岡市中央区大名1丁目

12-61 新天ビル402

☎ (092)771-9534

FAX (092)731-8274

編集：九州支部・総務委員会